

麻布尾
梅田町五〇

後藤
新平
殿

親展



大正十二年三月十日

南摩紀磨



拝啓貴下御々御清函之段奉答致す

昨今ノ政界ハ全ク黒雲ニ掩ハシ有識者ハ天皇ノ大権今
何処ニカ潜ムノ言ヲ僅ニ公衆ノ現政府ヲ信セサル從來毫
テ見ガル所ニテ執政黨内閣ノ日本国情ニ適セサル事
實ヲ明示セル事ニ希望至望ニ是下ハ昨今政壇黒
幕ノ野心ヲ捨テレ一意擁護的都市ノ建設ヲ思ヒ且タレ
一面ニハ大調査機關ヲ設ケ根本的ニ社会ノ大整理ヲ
為シ居ラシ申至願誠ニ佳好ノ事極意ト奉存ス
就テハ都市建設ニ對スル根拠ヲ在ニ昭示シ至ニ付
一覽御下至ハ幸甚ニ奉存ス

都市建設ニ對スル主要条件

一、地勢ノ利ヲ方一任ニ置ク事

從來ハ必要上水運ノ便ヲ先ニシ至ヒシモ今後ハ高燥平

直ナル地ヲ方一トナシ可キ地ニ選セシ事

一、都市ハ俗テ中心ニ在リテ建設ス可キ事

帝都ニアリテハ皇居ヲ中心トシ他ニ在リテハ官公役所ヲ

中心トナシ整型タル市街ヲ直管スル事

一、市内ノ建築家屋ハ特種ノ者ヲ除キ他ハ一室ノ様式ニ依リ表ク官公設官公有トナシ私設私物ヲ許サズル事

一、官公所ハ四階他ハ三階建トナシ可キ事

一、市街ヲ隔離業別ニ依リ其ノ居住所ヲ定ムル事

一、道路ハ場所ニ依リ砂道、本道、石道、コンクリート道トナシ

两侧ニ溝掘ヲシテ底部ハ下水路トナシ上ハ水道トナシ電線

等ノ普通道路ニ當ルル事

一、鉄道ノ市内ニ入ル者ハ皆高架線トナシ

一、市内ノ交通機関ハ主トシテ乗合自動車(三階付)ニ就

ラシムル事

一、工業地ハ市外ニ限ル事

一、空管裁判所管轄ハ皆テ市外ニ定ムル事

旧都市ノ大整理ヲササント欲セバ現代ヨリハ将来ニ重キヲ置キ
都市トシテノ必要條件ヲ完全ニ具備セルヤ否ヤヲ一審ニ
研究セカニ可カラズ而シテ洋ノ東西ヲ向ハズ旧大都市ハ科学的
智識ノ發達セカニ古代ニ定メラシタル者ナレバ其ノ遅キハ将来ニ
更ニモ勤カス可カラザル如處地ガ墾定セラシキ居リ申コト

将来備大ニ主權ノ發展又ハ運命ヲ握ヘル旧都ノ帝都トシテハ
古人ガ自然的ノ智識乃チ地勢ノ理ニ依リテ定メラシタル山城が大
和國旌ノ中心地タル可キ者ニ至近キ智識ヲ可キ其意ヲナセル哉
若ニ對スル防衛云々自然物ノ化ニ依リ平和的精神ヲ居ナカウニシテ
獨得シ得ル帝國權土中最高ノ地ニ至

明治大業ハ王政復古ノ業ヲ完成セラシメカ爲メ都ヲ東京ニ遷サ
シト云フモ其意則リシ後永ニ東京ヲ帝都ト定メ給ヒシ時
遷云々ニテハ世ニ序陸ヲ辨山ニ定メ給ヒシ序遷歌ニ依リテモ明カニ
其ノ必要ヲ窺ヒ得ラシ可申又々現存モ即位ノ大詔ヲ旧都ニ於テ
行ハシシハ寧ニ旧體ニ依ル形式ノミナラズ世ニ重キ事ニ至

山城ハ古來全國民ニ廟ニ對スル要ノ如キ信念ヲ皆ハ其ノ氣ノ

海軍を以て居る地にして武我ハ我利ノ爲メ政權ヲ垂せし幕府即
 チ武將ノ也在地盤を以て一霸軍起りし際東西九州ト北陸トノ
 連絡ヲ絶テ大坂ヲ用フルニ便ナル所ニ至る東山城ハ最高地ナ
 シ同地ニハ望居アリ又大坂ハ地ノ利大ナレバ帝都ニ近ク政權ヲ
 掌ラニナスニ便ナラズ依テ北軍鎮座ナル幕府ノ下ニ振攝ヲ東
 方武我ニ宜ナタル也又ニ至るし内閣の自家防衛上ヨリ打差セウ
 シタル振攝地にして帝都トシテハ何事ノ善惡モ是處ニ在リ地
 ニコエ

神武天皇ハ宜ニ偉大ナリ萬年之帝都トシテ當せん地ヲ都トシ
 宜ナラシ置カレしハ常智ノ及ブ所ニアラズ智勇上軍略上交通上
 帝都トシテ他ニ及ブ可キノ地ナシ理立ニ於ケル至るは朝臣中
 古今ヲ通算し帝國ノ前途ヲ開拓し帝國地勢ノ適用ヲ詳ニせん
 者アリヤ機軸的智識ヲ有する才人ハ是ト云フは機軸的智識
 創始的智識ヲ有するニ匹其位ニアラザルヲ惜しニ申す
 要理ハ吾人ニ大和民族ノ中心地トシテ山城ニ帝都ヲ新設ス
 何事ヲ教フル者ニ至るは理在ノ帝都タル東京市ヲ吾輩ニ對シ

ヲ考ヘル(外略)大都市トシテ大規模ノ改造設備ヲ施シトスルハ
眼鏡ヲ有セカニ近眼者ノ如ク抑ヲナシノ難ト新ニ申ス

對世界的大都市ノ建設ハ旧都市ノ一新ヲ新設スルカ最モ適
當ト確信スル事ニ至リテ是レ都市ヲ山城ニ復スルハ天ノ命地ノ利ニ
從ヒ人ノ和ヲ得ル最上ノ策ニ有リトス

世界ノ大勢ヲ察スルニ東京ハ將來高工業地トシテ大發展ヲナシ
得ル運命ヲ握ル者ト信セリト至リテ帝都トシテハ不適當ノ
地ニ至リ古人ハ土ヲ計畫シテ山城ニ遷都シ世界の大都會ノ帝
都建設ノ事ヲ回運轉スル者ノ高瞻ニ老ニテ至リ

右ハ帝都建設ノ根本方針ニ至リテ是レ東京市ヲ大改造
シサレシト考ヘ居ル至リ最モ一策ニハ實ニ至リテ是レ東京ニ世界
示シ止カル都市ヲ形成セウシト欲セバ如何ク都ノ中心ヲ遷カノ
所ニ移シ台傍ニ於テ貴下ガ策セウシテ方針ハ如何ノ中央部ナル
皇居ノ建設ヲ先ニシ明治宮公署ヲミテ現在ノ東京ト新設
都市トノ關係ヲ考察シ於テハ大體トテ帝都トノ關係ヲ接近セシメ
タリテ是レ道リ上クルカ可ナリト存ス

旧都市ノ大改道ハ其ノ骨ト爲テ空費スル事多クナラズ及テ
長年月ヲ要ス事ニ至

吾等ニ於ケル建築ノ將來ハ二様ニ分ル、若シ市庁至（都市ニ於ケル）
即チ大規模ノ共同大建築（都庁一市一棟主義）ト三階以下ノ集
合都会（特殊ノ建築物等）ノ二様ニ歸着スル者ニ至而シテ前者ハ
大陸方面ニ於テ既達シ日本ノ如キ此山子國ニ於テハ後者ニ歸着ス
ル者ニ至大陸ナラカル日本ニ於テ前者ヲ學べば萬里ノ長城ト
同様ノ愚ニ陥リ可申至

昨今日本ニ於ケル建築ノ南極ヲ見ハハ惟タ中軍ニ在ル即チ都市ノ
現狀ニ習ヒ將來第ニ短カシた此キニ長キ外装ハ虚飾ヲ爲キ建築
諸所ニミチ居リテ至大ノ第ト爲リ至シ新ニ建設スル都市ハ
宜ニテ大勢ノ將來歸着スル是ヲ推斷シ古人ノ残セル大智ヲ味ヒ
科學ノ新智ヲ用ヒ吾等ニ教ヲ示シ獨ハ計畫ヲ立ツ可キ事ニ
至主ハ細工式改道ニテハ常ニ此等ノ旧態ヲ是レルノミニテ國民
ノ幸福ヲ謀ル事ハ出来得カハナラズ徒ラニ民力ヲ不生息の
拒ラスノ果ヲ致スノミニ事至

都市ノ善ハ大家高橋ノ教多キ事ニ非ズシテ諸設備ノ整正（ル）
 ニ在リ是レ外觀ノ善ハ本邦ノ元整ニテモ希ヒノ善物ハ殊ニ眼ニテ
 善シキモノヲ望ムル者ニ至ル人ヲシテ快然ヲ味ハシムルハ外邦ノ
 善ヨリハ市民ノ公徳ト秩序ト無ニ觀切ムノ甚露ニ有レ至日本地
 何ニあても都市トシテ欧米様式ニ依ル外觀ノ善ヲ望ム同位ニ到
 セント雖モ元能ハズ寧ロ日本ニ於テ特ニ其差セル階級ノ善ヲ
 味ハシムルニ加カズ吾人ノ拝ムル神祇ノ建築ハ如何日本造リノ社殿ハ
 能ク裝飾ヲ去リ其ノ善ヲ示シ本邦元ノ素ニ絹布ヲ用フルノ飾リ
 方ハ如何歟千ヲ先ニスルハ其智ヤ低ク内容ノ充實ヲ先ニスルハ望ナリ
 人類カ智明動物タル以上民衆ヨリテ望ナラシメハル可カラズ其智ヤ
 如何實地ノ智ヲ涵養セシムル教育ニ在リ民智民力充實セバ自
 然的ニ不燃焼式ノ家屋モ増加シ衛生思想モ著クセシ然レ後
 都市ノ大改造ヲ新行スルカ唯道ト存至要ニシテ都市ノ大改造ハ
 市民生活忙怠ノ安寧ヲ望ムルカ先決問題デアン即チ市民ノ生活
 上必要ナル可カラザル諸物件ノ市價ヲ公定シ市民ヨリテ市定アン
 生活ヲ営ム易カラシムルカ根本ト存ス

現在ニ於テ東京ハ帝都タルカ故ニ他市ニ先ニシテ此是ニ主カシ
注キ他ニ於テ示サレシ事ヲ希望スルニ事ニ序理ス

貴下ニシテ現在ノ東京ニ大改道ヲ施サントノ事決ムニ至ルバ先ツ
富義ヲ説キ一沁ヲ創立セシメテ市街ノ埋ム地ニ範圍的小市街ヲ
建設セシメ市民ノ自覺ヲ促サレシ事ヲ報告スルニ至

昨午市面會任リ至節貴下ノ事去望ヲ知り揚申至ニ付
先礼ヲ獻シテ拙見ノ一端ヲ呈リ出キ獨リ呈上セラルベキニ
序理ス

大正十一年三月十三日

新見

南聲紀略

市外下落合五九六

後藤新平

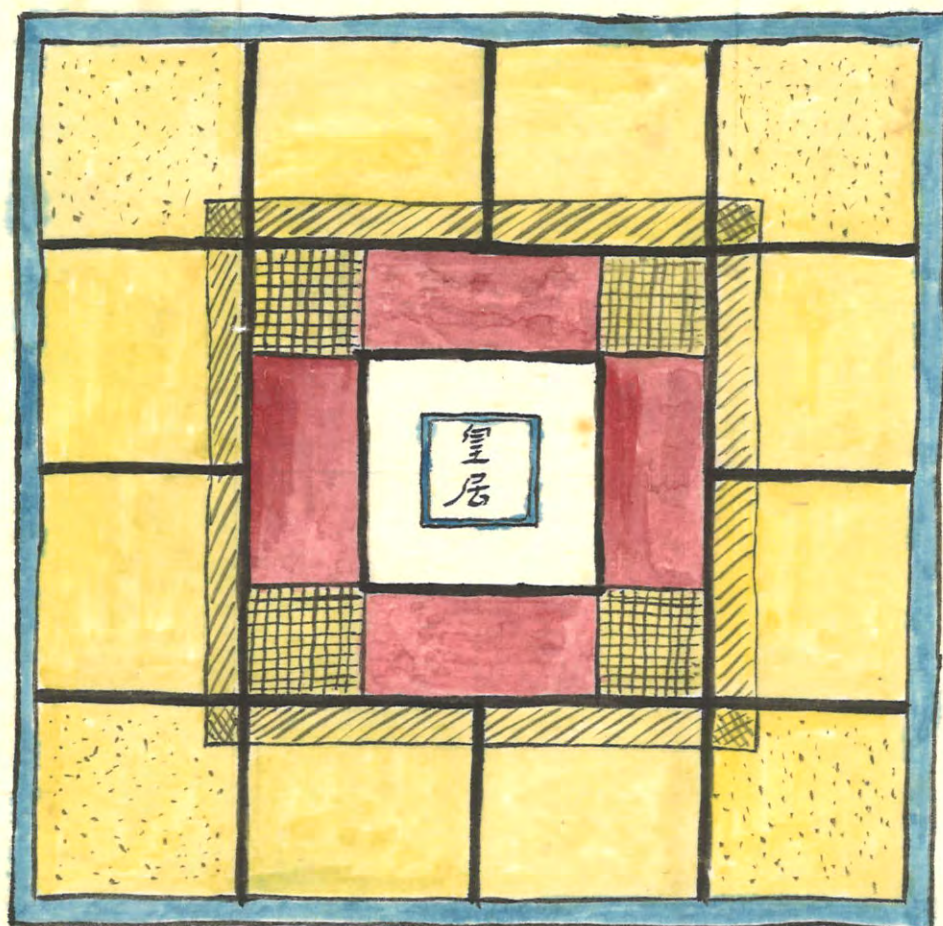
○市長ニシテ序言趣サシ至ルバ帝國ノ為メ具體的分解量
作成提任可仕ス

大帝都地厘分局

市有地ハ公園地ニ除キ十二厘ニ配割ス

□ 御料地
■ 官有地
■ 市有地
■ 堀河

■ 自由地
■ 大停車場
■ 大公園
■ 小規模殖産工業地



- 御料地内ニハ皇族ノ住宅並ニ宮内關係以外ノ建物ヲ造ル事ヲ得ズ
- 官有地ニハ内外ノ官署並ニ諸官設建物ノ外設クル事ヲ得ズ
- 市有地ニハ公園地自由地四端地ヲ除ク外一定様式ノ建物ノミヲ造ル事
- 公園地ニハ大集会堂運動場並ニ娯樂場ヲ設クル事
- 停車場地ニハ旅館所ヲ設ケ停車場ノ屋上ニ步行橋着下場ヲ設クル事
- 自由地ハ大中小ノ地割ヲナシ孤立シタル住宅ヲ建設スル事ヲ得建替様式ハ自由ナレ三階ヲ起スル事ヲ得ズ
- 殖産工業地ノ建物ハ別ニ制限ヲ附セス
- 他ハ交通道路各厘市街局官有地配分圖ニ依リ分明ナレ之ヲ略ス